

大阪大学図書館報

Vol.30 No.3 Dec. 1996 (平成8年) 通巻 124号

目次

- マディソン右往左往
- 附属図書館所蔵貴重書展示会を開催
- 大阪大学附属図書館職員研修会を開催
- 教官寄贈著作図書
- 図書館業務用電算機システムの機器更新
- 釜山大学校図書館員の研修
- お知らせ・日誌

マディソン右往左往

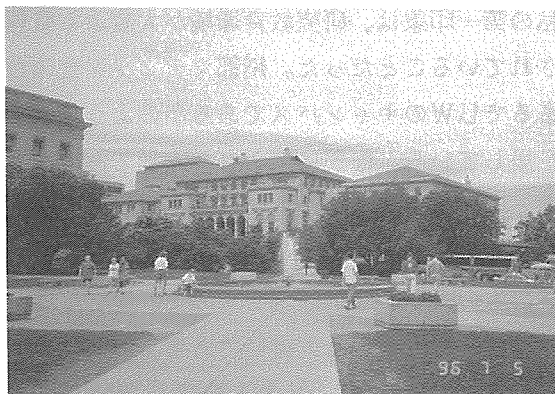
門 昇

キャンパス・リズ・湖

美しいキャンパスの芝生や木々のあたりにリスがときどき顔を出す。広大なキャンパスの個性的な建物や雄大な風景を見ながら、宿舎からロー・スクールの建物までほとんど毎日通った。メンドータ湖に面したメモリアル・ユニオンのテラスで食事や読書をして過ごした。多くの学生や市民がテーブルを囲んで食事をしたり、会話を楽しんでいる。目の前の湖には夏の日差しをたっぷり浴びたヨットが点在している。気候もよく、のどかだ。ゆったりした気分になり、爽快だ。

私は1996年の7月1日から約1ヶ月間ウィスコンシン州マディソンのウィスコンシン大学(University of Wisconsin (UW))に滞在した。このように素晴らしい環境の中で過ごすことになり、しばらくは日本のことを忘れて、当

地での研修に専念しようと決意したが、やはり日本の出来事が気になるのは、出出しから何と



メモリアル・ユニオン

も心許ない限りだ。だが、そういう問題も簡単に解決した。インターネットのおかげで、日本のニュースもいち早く知ることができたからで

ある。あるライブラリに日本の新聞も置いてあったが、最新の情報を入手するにはやはりインターネットの方が便利だった。朝日新聞や The Japan Times などのホームページにアクセスして、「O-157の食中毒事件」が大問題になっていることなどを知った。

大学・ライブラリ・市民

ライブラリのいろはを教わった後、法学部に勤務することになった私の最大の関心の一つは、リーガル・リサーチ（法的問題を解決するために法情報の調査・分析をすること）である。数々の書物で得た知識を実際にアメリカで確かめてみたいという希望がようやく実現した。アメリカのロー・スクールにて法情報学の一端を経験することが今回の研修の主要な目的の一つである。具体的には、(1)ロー・スクールにおけるリーガル・リサーチの教育 (2)法に関するデータベース (3)高度情報化社会における法律図書館の役割などについて調査することである。

いささか欲張った計画を立てたが、ある程度満足できる成果が得られた。これらの目的以外に予期せぬ収穫があったことはいうまでもない。キャンパスを離れた場所での数々の経験も大変有益であった。

およそ150年前に設立されたUWにおける私の第一印象は、研究教育環境が大変よく整備されていることだった。州都マディソン全体がまるでUWのキャンパスであるかのような様相を呈している。市民に開かれた大学である。大学と街とが遊離していない。街・市民と大学とがよく調和を保っているように感じる。

日本の大学が広い敷地を求めて、辺鄙な場所へ移転して行くのと大違いである。わが国の大学が、「生涯教育」、「社会人教育」、「開かれた大学」ということを意識するならば、通学のための交通の利便や市民との交流などを積極的に考える必要があるだろう。また、大学のある場所だけではなく、あらゆる場所がキャンパスになりうるという柔軟な発想が必要ではないだろ

うか。

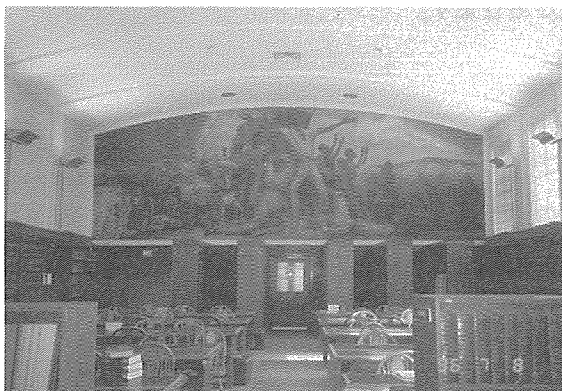
アメリカのロー・スクールのライブラリの状況については、書物を通じてある程度は知っていたが、現実に目の当たりにするとやはりショックが大きかった。コンピュータによる情報処理が見事に行われている。UWのライブラリのホームページ (<http://www.library.isc.edu/>) にアクセスしてみるとその様子がわかる。キャンパス内には多くのライブラリがあるが、私は主にロー・スクールのライブラリとメモリアル・ライブラリ（主に人文・社会科学系の資料を所蔵、東アジア関係の資料も多数所蔵）に出入りしていた。これらのライブラリにはコンピュータがあちこちに設置されていて、自由に利用できる。ほとんどのコンピュータの画面にこのホームページが出ている。この画面から蔵書検索や多数のデータベースの利用などができるようになっている。本学で言えば職員録（自宅の住所・電話の情報ではなく、所属、身分、電話番号など職場内に関するデータ）の内容もデータベース化されていて、これもコンピュータ検索ができる。

ゆったりした閲覧室は心地よい。開いている時間も長く、日曜日でも夜遅くまで利用できる。蔵書の配置もよく考えてあり、機能的で使いよい。何よりもライブラリアンのレベルの高さが、ライブラリの多様な機能を十分に発揮させているといえるだろう。ライブラリという職場にいるからライブラリアンということではなく、ライブラリアンだからライブラリでプロフェッショナルとしての仕事をしているのだということを強く感じる。レファレンス・コーナーには、彼らの手になると思われる数々の有用な資料が並べられている。どんなに建物が立派でもまた蔵書がたくさんあっても、結局それらを利用するのは人間である。当り前のことだが、これらの研究教育設備の機能は、人間の能力に左右される。

確かにUWのキャンパスは広い。建物も立派だし、研究教育設備もよく整備されている。し

かし、私の見た限りではそれほどお金をかけたという印象を持たなかった。たとえば、閲覧室等に設置されているコンピュータに関しては、大阪大学で見かけるものの方が最新で機能も充実していると思われる。だが、コンピュータでできる内容では相当の違いがあり、学内のコンピュータによる情報検索などは実に便利なものであった。単にOPACだけの機能ではなく、いろいろなことをできるコンピュータが設置されていた。コンピュータをどう使うかということに対する発想の違いが大きいように感じる。

本学においても図書館を中心として学術情報の構築についての改革が急務である。蔵書構成、情報の収集・検索・整理などの一連の情報処理等について、今後さらに検討を重ねて行く必要がある。



ロー・スクールのライブラリ

マディソン・大阪

ある調査によると、マディソンは、アメリカで生活するには最適の都市の一つとしてしばしば選ばれているとのことだ。同じ夏とはいえ、大阪とは気候がずいぶん違う。日中街を歩いても、ほとんど汗をかかない。マディソンは、大阪に比べて、気温も低く、湿気も少ない。夏を過ごすには快適だ。8月2日午後、関西国際空港に到着したときの暑さは強烈だった。それまでの快適さを一気に忘れさせるには十分に迫力のある天候だった。

滞在した期間が夏休みのため、学生数は少ないが、決して閑散としているというような状態ではない。いろいろな学術的な催し物や講習会などがキャンパス内のあちこちの建物で行われている。私もサマー・プログラム（外国人向けのアメリカ法に関する講義）の一部を聴講したり、講習会に出席した。本当に充実した内容であった。現在、人々の関心の高いインターネットのHTMLに関する講習会にも出席した。講師も受講者（学生だけではなく、年齢層は多様）も大変熱心だ。本学においてもこのようなワークショップなどを積極的に開催することが望ましい。

なお、ほぼ1ヶ月間のマディソン滞在中にアメリカ法律図書館協会（AALL）の第89回年次大会がインディアナポリスで開催された。かねてより機会があれば、ぜひこの大会に出席したいと思っていたので、喜んで出かけた。これもまことに興味深い内容であった。これについては、機会があれば改めて紹介したいものである。

滞在中および帰国後も始終考えていた。大阪大学とUWとは何が違うのかを。UWで接した多くの人たちから感じたことは、第一に発想の違い、第二に職員の意欲（取り組み方）、第三にプロフェッショナルとしての自覚などである。仕事をする上で、いずれも大切な要素である。大学を活性化し発展させるには、建物の立派さ、敷地の広さといった物理的な要素も大事であるが、それ以上に大学の中で活動している職員や学生の心のあり方、思考、意識などの精神的な要素が何よりも重要である。大学の将来や価値は、そこにいる人間のアイデアや活力などに大きく依存しているということを改めて考えさせられた。

最後にこの研修の機会を与えていただいた大阪大学法学部とUWおよび関係者の方々に心からお礼を申し上げる。

（かど のぼる 法学部講師）

図書館業務用電算機システムの機器更新

図書館では、業務用電算機システムの機器を平成8年度内に更新する予定です。利用者の方に関係する事項を中心に、概要をご説明します。詳細は、後日、館内掲示やWWWの図書館ページでお知らせします。

1. O P A C (Online Public Access Catalog)

O P A Cとは、本学図書館が所蔵する図書や雑誌について、電算機を使ってオンラインで調べるための仕組みです。

- ・ 現行システムでは、利用可能時間に制約がありましたが、次期システムでは原則無休となります。
- ・ 貸出中資料に予約があるかどうか分かるようになります。
- ・ 現行システムで提供している3種類の利用方法（図書館室設置の専用、端末での利用、電話回線経由での利用、telnetによる利用）に加えて、WWWブラウザによる利用が可能になります。
- ・ telnetによる利用のための接続手順が簡略化されます。
- ・ 操作方法、画面デザインや表示内容などに変更があります。

2. 貸出・返却など

- ・ 利用者の方からみた利用方法は、特に変更ありません。
- ・ 現行システムでは、水曜日の午後には貸出資料のタイトル問い合わせができないなどの制約がありました。次期システムではそのような制約がなくなります。

3. 利用者票

- ・ 利用者票は、紙質やデザインに若干の違いがある程度で特に変更はありません。既存の利用者票はそのままお使い頂けます。
- ・ 利用者票の発行申し込みからお渡しできるまでに必要な日数が、これまでより短くなる予定です。

4. その他

- ・ 資料の購入や目録作成などの事務処理について効率化を図り、資料を少しでも早く利用に供するようにする予定です。
- ・ 機器更新作業は、平成9年3月～4月を予定しています。この間、O P A C、資料貸出、I L L（外部図書館からの資料借受や複写取寄せ）、雑誌の受入など、利用者サービスに係る業務は極力停止しないようにスケジュールを工夫いたしますが、やむを得ずサービスを停止もしくは制限する期間があります。利用者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

附属図書館所蔵貴重書展示会を開催

附属図書館では、教育文化週間行事の一環として、本館自由閲覧室を会場に、第1回貴重書展示会「西洋が見た近世のアジア・日本」を開催しました。11月11日（月）から15日（金）の開催期間中の参観者は、学内教職員・学生、学外者総計400人弱でした。

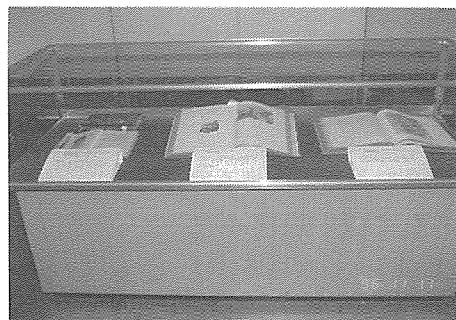
展示資料は、図書館が所蔵する日本に関する資料を中心とした西洋稀覯文献で、原資料を多く含むコレクションであり、日本学の研究者、当時の事情に関心を持つ方々にとっては貴重な資料38点80冊余りでした。

同資料は、前回の図書館報でもお知らせしたように、図書館が文学部の推薦を基に文部省の予算措置を受け、平成7年度大型コレクションとして購入されたものです。

参観者たちの反応はおおむね好評で、次回の企画への期待も多く寄せられていました。

●展示資料の一部

- Histoire naturelle, civile, et ecclesiastique de l'Empire du Japon / composée en allemand par Engelbert Kaempfer...
ケンペル 『日本誌』
- Voyages de C.P. Thunberg, au Japon, par le Cap de Bonne-Espérance, les îles de la Sonde, &c....
トゥーンベリ 『日本紀行』
- Nipon o dai itsi ran, ou, Annales des empereurs du Japon / traduites par Isaac Titsing...
ティチング 『日本王代一覽』
- Narrative of the expedition of an American squadron to the China seas and Japan : performed in the years 1852, 1853, and 1854, under the command of Commodore M.C. Perry ..
ペリー 『日本遠征記』



釜山大学校図書館員の研修

大韓民国の国立釜山大学校の図書館員4名が、附属図書館で11月11日（月）から20日（水）まで8日間の研修を受けました。

釜山大学校では、図書館員のための海外研修制度を設け、毎年海外の大学図書館へ職員を派遣していますが、今年は学術交流協定を締結している大阪大学が研修先に選ばれ、黄^{フアン} 閲覧課長と3名の女性司書が、電算化された図書館業務を体験研修することを目的として派遣されたものです。研修は、附属図書館の部課長、掛長をはじめとする同館の職員を講師として行われ、内容は図書館の組織運営の実際をはじめ、端末機からの目録入力等電算化された図書館業務の各過程、CD-ROMやオンラインでの各種情報検索など極めて多岐にわたるものでした。

さらに予算や人事システムの相違などについての意見交換や、1994年の大阪大学における集中豪雨による冠水被害と、1995年の阪神・淡路大震災の体験を基に「図書館と災害」をテーマとして図書館の防災体制についての意見交換も行いました。また、京都大学附属図書館、大阪市立



大学学術情報総合センター、関西大学図書館など近畿地区の国・公・私立大学図書館等での見学実習、さらに本学の国際交流課での研修など盛り沢山のプログラムとなりました。

黄^{ファン}課長をはじめとする4名の図書館員は、きわめて真摯、かつ熱心で、しばしば予定時間を大幅に超過するほどであり、附属図書館職員も啓発される場所が多く、有意義な交流ができました。研修の最終日には、林附属図書館長と両館の職員一同が盃を交わし、より一層活発な交流と相互の友好を祈念して両国の民謡を合唱して日程を終えました。

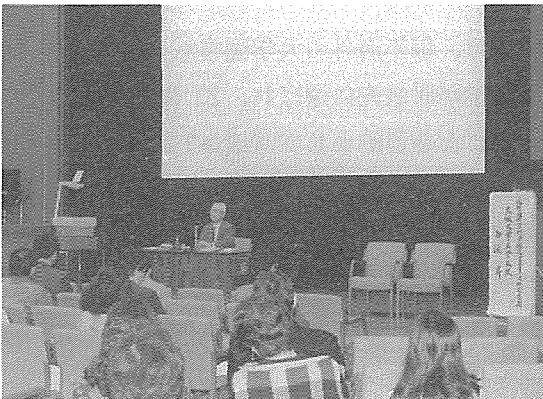
大阪大学附属図書館職員研修会を開催

附属図書館では去る12月16日(月)、梅溪昇本学名誉教授、長尾真京都大学附属図書館長を講師にお招きして、大阪大学銀杏会館ホールを会場に図書館職員研修会を開催しました。

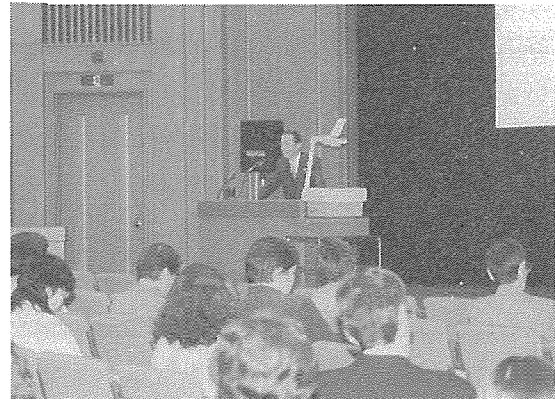
梅溪名誉教授は「適塾関係資料及び懐徳堂文庫の史的意義」と題して、大阪大学の源流とされる蘭学の適塾、町人の学問書であった懐徳堂および含翠堂について、その沿革や関係資料が本学に所蔵されるに至るまでの経緯、さらに研究の現状等について講演されました。また、講演の中ではこうした歴史的資料がまとまった形で保管されていることの価値、及びその整理運用にあたっての図書館員の役割の重要性が強調されていました。

長尾館長は「電子図書館の構築」をテーマとして、今後の図書館のあり方を大きく変えると思われる電子図書館について、その研究の現状や今後の展望について講演されました。特に、現在京都大学などで進められている電子図書館「ARIADNE」計画にもとづいた具体的な電子情報の構築事例を中心に、最先端の情報が披露されました。

過去の貴重な資料の保存・運用と、未来に向けた電子図書館の構築は現在の図書館に求められている二つの大きな使命であり、それぞれの分野の第一人者を講師にお招きした今回の研修会には、本学図書館職員だけでなく、近隣の大学図書館職員、学内各部局の教職員、学生など約120名が参加し、熱心に聴講していました。



梅溪名誉教授の講演



長尾京大附属図書館長の講演

■■■■■■ 教官著作寄贈図書 ■■■■■■

—本館—

中西 通雄 (情報処理教育センター、助教授)
NEXTSTEPによるコンピュータリテラシー入門／松浦敏雄、中西通雄、原田章監修
(アスキー 1996)

興地斐男 (工学部、教授)

DQPSS'95 : proceedings of the International Symposium on Dynamical Quantum Processes on Solid Surfaces, Osaka, Japan, 20-22 September 1995. edited by Ayao Okiji et al.
(Elsevier, 1996)

○理学部、基礎工学部にも寄贈

藤井 治彦 (文学部、教授)

イギリス・ルネサンス詩研究 / 藤井治彦著
(英宝社 1996)

加賀山 茂 (法学部、教授)

民法体系 1 / 加賀山茂著
(信山社 1996)

東野 治之 (文学部、教授)

長屋王木簡の研究 / 東野治之著
(塙書房 1996)

—吹田分館—

田中 一朗 (名誉教授)

抵抗と推進の流体力学 : 水棲動物の高速遊泳能力に学ぶ / 田中一朗, 永井實著
(シッフ・アント・オーシャン財団 1996)

○本館にも寄贈

中島 信一 (工学部、教授)

Silicon carbide and related materials, 1995 : proceedings of the Sixth International Conference, Kyoto, Japan, 18-21 September 1995 / edited by S. Nakashima ... [et al.]
(Institute of Physics 1996)

興地 斐男 (工学部、教授)

Elementary processes in excitations and reaction on solid surface : proceedings of the 18th Taniguchi Symposium, Kashikojima, Japan, January 22-27, 1996 / A. Okiji, K. Makoshi, H. Kasai (eds.)
(Springer 1996)

○本館、理学部、基礎工学部にも寄贈

徂徠 道夫 (理学部、教授)

14th IUPAC Conference on Chemical Thermodynamics ICCT-96, August 25-30, 1996 Osaka, Japan / edited by Michio Sorai, et al.
(1996)

—基礎工学部図書室—

田村 坦之 (基礎工学部、教授)

Advances in production management systems : proceedings of the 6th IFIP TC5/WG5.7 International Conference on Advances in Production Management Systems-APM'96 Kyoto, Japan, 4-6 November 1996 / ed. by Hiroyuki Tamura, et al.

(IFIP 1996)

■■■■■■ お知らせ ■■■■■■

○ 医学中央雑誌CD-ROM Windows 版検索サービス開始

生命科学分館では医学中央雑誌のCD-ROM版をMS-DOS版の検索ソフトで利用していただいていたが、このたびWindows版検索ソフトでの検索が出来るようになりました。基本操作はメニューバーを選択してクリックします。MS-DOS版より検索速度が早く、画面は鮮明です。しかしながら現在のところWindows版で検索出来る範囲は最新版が対象となります。遡って検索される場合はMS-DOS版を併用していただくこととなります。1987年分より同一ソフトで検索が出来るようCD-ROMドライブの増設を検討しておりますが、いましばらくMS-DOS版との併用をお願いします。なお、これまで3ヶ月毎であったデータ更新が1997年からは毎月更新されます。ご活用ください。

○ 新データベースの試用

Vol. 30, No. 1でお知らせしたように、学術情報検索システムに今年度から専用の検索ソフトを必要とする新しいデータベース、「Global Books in Print Plus」、「Dissertation Abstracts Online」、「CA on CD」、「Ulrich's Plus」の4種が加わりました。この新データベースは公開に向けて館内テスト中ですが、図書館に来館していただければ検索用パソコンで試用することができますので、ご利用ください。試用できるのは本館、生命科学分館、吹田分館、基礎工学部図書室、理学部図書室です。

なお、試用にあたっては次の点をご了承ください。

1. 現在試験中のシステムであり、動作確認が完了していません。
2. 異常動作（起動できない、途中でハングアップするなど）をした場合、対処できない場合もあります。
3. マニュアルが未整備です。
4. 常時使用できるとは限りません。
5. 検索システムに関して問題点がありありましたら職員にお伝えください。

■■■■■ 日 誌 ■■■■■

9. 4	吹田地区運営委員会	(吹田分館)
9.25	図書館情報システム特別委員会 平成8年度第2回次期電算化システム専門委員会	(東京大学)
10. 2	図書館情報システム特別委員会 平成8年度第2回ILLシステム専門委員会	(生命科学分館)
10. 4	近畿地区医学図書館協議会例会	(生命科学分館)
10.16	国立大学図書館協議会理事会	(京都市勧業館・京都大学)
10.22	NACSIS-IR講習会	(学術情報センター)
11. 6	第29回国立七大学附属図書館部課長会議	(東京大学)
11. 7	第70次国立七大学附属図書館協議会	(東京大学)
11. 8	国立大学図書館協議会と学術情報センターとの 業務連絡会平成8年度第2回	(東京大学)
11.11~14	平成8年度大学図書館職員講習会	(京都大学)
11.11~15	平成8年度漢籍担当職員講習会(中級)	(京都大学)
11.11~15	第1回貴重書展示会	(本館)
11.11~20	大韓民国釜山大学校図書館職員研修	(本館他)
11.20	日本医学図書館協議会理事会・評議会	(東邦大学)
11.25	図書館情報システム特別委員会 平成8年度第3回次期電算化システム専門委員会	(東京大学)
11.27~28	第9回国立大学図書館協議会シンポジウム	(名古屋大学)
11.30	近畿地区医学図書館シンポジウム	(大阪市立大学)